

執筆要領

1. 原稿の形式

- a) 原稿ファイルは、Microsoft Word (.doc, .docx) またはリッチテキスト (.rtf) 形式で作成する。
- b) A4 サイズの用紙に 1 頁あたり 25 字×24 行で記述する。
- c) 用紙の上下左右に約 3 cm の余白をとる。
- d) 原稿は、表題、図表を含め 1 個のファイルにし、刷り上がり 5 頁以内を原則とする（おおむね原稿 14-15 頁が目安）。
- e) ファイル名は「筆頭著者名.拡張子」とする。同一筆頭著者が複数の報文を投稿する際は、著者名の後ろに番号を付けて区別する。
- f) ファイルサイズは 5 メガバイト以下とする。

2. 原稿の構成

- a) 第 1 頁に和文表題と著者名、英文の表題と著者名および著者の所属機関名を記載する。
- b) 第 2 頁に和文あるいは英文の摘要を記述する。摘要の下に改行して、英文でキーワードを記載する。
- c) 第 3 頁以降に、本文、謝辞、引用文献の順に記載する。そのあとに図表を添える。
- d) 全ての頁の下に通し頁番号をつけ、図表以外の原稿の左余白に通し行番号を付ける。

3. 表記

- a) 和文では明朝体、英文では Times New Roman を用い、見出しおよび小見出しにはゴシック体を用いる。
- b) アルファベットおよび算用数字は和文、英文中とも半角文字で記述する。
- c) 句読点は、「.」「,」を用いる。和文中では句読点および括弧、コロン等の記号は全角で記述し、英文中では半角で記述する。
- d) 数字は算用数字、動植物の和名はカタカナ、ウイルス名はカタカナとアルファベット、年号は西暦、漢字は原則として常用漢字で記述する。同一報文内では送り仮名や用語を統一する。
- e) 学名については、属名および種小名はイタリックで記述し、属名の頭文字は大文字、種小名は小文字とする。属より上位の学名はイタリックにせず、頭文字を大文字とする。sp., spp., var. はイタリックとしない。
- f) 数値には 3 桁ごとにコンマを入れる。
- g) 農薬名は原則として一般名を用いる。
- h) 単位は以下の例によるほか、原則として国際単位系 (SI) を用いる。数字と単位記号の間には半角スペースを挿入する。ただし、%などの記号は数字に続けて記述する。
長さ：km, m, cm, mm, μm (μ ：ミクロンは単体で使用しない)
面積： km^2 , m^2 , cm^2 , a, ha など
体積： km^3 , m^3 , cm^3 (cc は使用しない), mm^3 , kL, L, mL, μL など
重量：t, kg, g, mg, μg , ng, pg など
時間：秒, 分, 時間, 日, 週, 月など (英文中では s, min, h, day(s), week(s), month(s), year(s) など)
濃度：M, mM, μM , N, % (数字を伴う時および図表中のみ使用し、本文中で概念的に用いる場合は「割合」「比率」等の語を用いる), g/L, mg/L, $\mu\text{g/mL}$, ppm, ppb
温度： $^{\circ}\text{C}$
重力： $\times g$
その他：同位元素 ^{32}P , 放射線量 Bq, 酸化還元電位 rH, 水素イオン濃度 pH

4. 表題

- a) 簡潔でかつ内容を的確に表しているものとする。
- b) 続報の場合、主題は前報と一致させる。
- c) 英文の表題は、単語の頭文字は大文字で記述する。ただし冠詞、前置詞、接続詞および学名の種小名は表題の冒頭を除き小文字で記述する。

例) The Role of Aphid Flight by *Myzus persicae* in the Spread of Plant Viruses and Its Impact on Disease Risk

5. 著者名

和文著者名は、姓または名が1文字の場合、姓と名の間を1字あける。英文著者名は、名・姓の順に名は頭文字のみ大文字、姓は全て大文字で記載する。

例) Taro KITAMOTO

6. 所属機関および所在地

- 所属機関名は正式名称の記述を原則とするが、混乱が生じない範囲であれば略称の使用も可とする。「農林水産省」など国の所属機関の省庁名は入れない。都道府県の所属機関のうち、県庁等については「庁」を付けず県名、部署名を記載し（例：北海道農政部）、試験場所は場所名のみ（例：青森県産業技術センター農林総合研究所）を記す。大学は大学名および学部等の部署名を記載する。
- 著者の所属機関は、著者名の右肩に上付半角数字（1,2,3,...）を付け、対応する所属機関名の冒頭に全角片括弧付きで同じ数字を記して示す（例：農林太郎¹, 1) 農研機構東北農業研究センター）。著者が複数いる場合、責任著者名に上付半角アスタリスク（*）を付けて「責任著者（Corresponding Author）」と記す。第1著者・責任著者については、英文での所属名・所在地の記載も行う。郵便番号の前には「,」は付けない。責任著者については、メールアドレスの記載も行う。
- 転出後の所属機関を記載する場合も、上記b)に準じて上付き数字で記載・対応付けを行い、「現在：岩手県農業研究センター」のように記載する。
- 英文の所属機関名および所在地について、県名と市名が同じ場合は県名を省略する。

例) 農林太郎¹・北日本花子^{2,3}・盛岡次郎²・大仙 肇^{1,4,*}

1) 農研機構東北農業研究センター

NARO Tohoku Agricultural Research Center, Morioka, Iwate 020-0198, Japan

2) X 県農業試験場

3) 現在：X 県農政部

4) 現在：岩手大学農学部

*) 責任著者（Corresponding Author）

Faculty of Agriculture, Iwate University, Morioka, Iwate 020-XXXX, Japan

northjapan7@kitanihon.go.jp

7. 摘要

摘要は和文あるいは英文で記述する。和文で400字以内、英文で200語以内とし、段落分けは行わない。

8. キーワード

- キーワードは英文表題に含まれない語を用い、英語で3~6件とする。
- Key words: に続いてアルファベット順に小文字で記述する。地名などの固有名詞の頭文字は大文字で記述する。
- キーワードには原則として略称を用いない。ただし、分野内で広く定着している略称については、正式名称の後に括弧内に略称を併記することにより使用することができる。

例) キーワードが5件の場合

Key words: bacteria, *Chilo suppressalis*, Hokkaido, Integrated Pest Management (IPM), paddy field

9. 本文

- 本文中の病害名および害虫名等の初出の際には、その原因となる病原体あるいは昆虫等の学名を略さずに記載する。初出以降は原則として和名のみを用いる。ただし、学名を用いる必要がある場合には、属名を略記した学名を用いてもよい。なお、病害名および害虫名は原則として最新の日本植物病名目録（日本植物病理学会編）、農林有害動物・昆虫名鑑（増補改訂版）（日本応用動物昆虫学会編）、日本昆虫目録（日本昆虫目録編集委員会編）に従う。

- b) 見出しは行の中央に記述する。小見出しは左詰めで、半角の算用数字の番号、全角ピリオド、小見出しの順に記述する。
- c) 本文中の図表の引用は、図表が和文の場合は「第 1 図」, 「第 1 表」, 英文の場合は「Fig. 1」, 「Table 1」のように半角数字を用いて記述する。
- d) 図表の挿入場所の目安は本文右欄外に赤字で記入する。
- e) 本文中での文献の引用は、文末に括弧を付けて引用文献番号を記すか、著者名を挙げてそのあとに引用文献番号を記載する。後者の場合は、著者が 2 名以内の場合は全員を、3 名以上の場合は第 1 著者に「ら」あるいは「et al.」を付けて他を省略する。
例) 古田・関口 (1) は, ...
平野ら (2) によると, ...
Takematsu and Ichitani (3) は, ...
Sone et al. (4) は, ...

10. 引用文献

- a) 引用文献のリストには本文中に引用した文献を必ず記載する。引用されていない文献は挙げない。
- b) 番号は 1), 2), 15) のように片括弧を用い、半角数字で記す。
- c) 第 1 著者名の ABC 順に配列し、第 1 著者が同じ文献を複数引用する場合は以下の例に従って記載する。
例) 1) Parker, G. H. (1945) ……単一著者の文献は共著のもの前に年号順。
2) Parker, G. H. (1950)
3) Parker, G. H. (1956a) ……同じ年の 2 つ以上の文献には a, b, c, …を本文に出た順につける。
4) Parker, G. H. (1956b)
5) Parker, G. H. and Taylor, A. (1955) ……著者が 2 人の場合、単一著者の文献の後に
6) Parker, G. H. and Wilson, C. (1950) 第 2 著者の ABC 順。
7) Parker, G. H., Meyer, B. and Nelson, S. (1969) ……著者が 3 人以上の場合、
8) Parker, G. H., Nelson, S. and Dale, A. (1970) 著者 2 人の論文の後に年号順
9) Parker, G. H., Meyer, B. and Nelson, S. (1972) (第 2 著者以降の ABC 順は考慮しない)
10) Parker, G. H., Nelson, S. and Mayer, B. (1973)
- d) 著者名は 10 名までの場合は全員を記載し、11 名以上の場合は最初の 5 名のみを記載した後に「ら」あるいは「et al.」を付す。
- e) 和文文献では、著者の姓または名が 1 文字の場合、姓と名の間を 1 字あけ、著者間には中黒「・」で区切る。英文文献では著者の姓、名の頭文字、著者間は「,」で区切る。和文文献の編集書・監修書の場合には著者名の後に(編)・(監)を、英文文献では単数の場合には(ed.)を、複数の場合には(eds.)を用いる。
- f) 和文誌は略記しない。欧文誌は ISO 4 に準拠し、PubMed, Web of Science, Scopus, Chemical Abstracts Service (CAS) 等の主要文献データベースにおける表記に従って略記する。
- g) 和文では、数字とアルファベットは半角、括弧、コロン、ピリオドは全角を用いる。英文では、全て半角を用い、論文題目と種のタイトルは最初の文字以外は小文字、本のタイトルは大文字で記述する。和文英文とも、頁範囲にはハイフンではなく二分ダッシュ(en dash)「-」を用いる。
- h) 論文では、著者名、発行年(西暦)、論文題目、誌名、巻数:頁の順とする。
例) 古川勝弘・江部成彦・田中文夫(1997)北海道十勝地方における 1996 年のインゲンマメ黄化病の多発生。北日本病害虫研究会報 48: 75-79。
Miller, W. A., Dinesh-Kumar, S. P. and Paol, C. P. (1995) Luteovirus gene expression. Crit. Rev. Plant Sci. 14: 179-211.
- i) 単行本では、著者名、発行年(西暦)、単行本名(副題は:の後に記す)、出版社、頁数の順とする。翻訳本の場合には、原著の著者名と発行年の後に、[] の中に翻訳本の訳者と発行年を記す。
例) 桐谷圭治・中筋房夫(1976)害虫とたたかう:防除から管理へ、日本放送出版協会, 229 pp。
ダニレフスキー, ア・エス(1961)[日高敏隆・正木進三 訳, 1966]昆虫の光周性, 東京大学出版会, 293 pp.
- j) 単行本の章では、章の著者名、発行年(西暦)、章のタイトル、本のタイトル(英文では In: を冒頭に付け

る)、本の編者名、出版社、頁の順とする。引用ページ数が1頁の場合は p. 123 のように記述する。

例) 本多健一郎 (2000) ウイルス媒介性, アブラムシの生物学 (石川 統編), 東京大学出版会, pp. 181–207.

Lacomme, C., Pickup, J., Fox, A., Glais, L., Dupuis, B. et al. (2017) Transmission and epidemiology of potato virus Y. In: *Potato Virus Y: Biodiversity, Pathogenicity, Epidemiology and Management* (Lacomme, C., Glais, L., Bellstedt, D. U., Dupuis, B., Karasev, A. V. and Jacquot, E. eds.), Springer, pp. 141–176.

k) 講演要旨を引用する場合は、最後に (講要) あるいは (Abstr.) と明記する。

l) ウェブサイトでは、著者名、公開年 (または更新年)、ページタイトル、URL、参照日の順とする。

例) 農林水産省 (2025) 令和6年産 てんさい生産費. https://www.maff.go.jp/j/tokkei/kekka_gaiyou/noukei/nu_seisanhi/r6/tensai.html (2026年2月1日参照)

11. 図表

a) 表には縦罫を入れない。横罫は一本線とする。極端な横長や縦長は避ける。

b) 表の表題は表の上に記載し、表題の文末にはピリオドを付けない。

c) 表に注釈をする場合は、表中の関連語句に a), b), c), ... 等の上付文字を付け、表の下に注釈文を記述し、文末にはピリオドを付ける。注釈文の a), b), c), ... 等は上付文字にしない。

d) 図の表題と説明は原図の下に記載する。和文の場合は、表題の文末にはピリオドをつけない。説明は表題から改行して記述し、文末にピリオドを付ける。英文の場合は、表題および説明を同じ行に続けて記述し、文末にはピリオドを付ける。

e) 図表中の文字は、和文では明朝体を、英文では Times New Roman を使用する。

f) 図表は、出版される場合に予定している色 (モノクロまたはカラー) で準備の上、投稿する。

g) 最終原稿ファイルの提出時に、表、グラフ、画像等の元ファイルを別途提出してもらう場合がある。

12. 電子付録

a) 電子付録は、冊子体には掲載されないが、J-STAGE において報文とともに web 上に公開される。

b) 電子付録は、補足資料 (報文本体記載の図表に関する具体的数値、気象データ、統計量、試験区割の図、病虫害や実験装置の写真等) であり、報文内に含めるべき内容を掲載することはできない。

c) 電子付録の査読において、通常は「受理/却下/報文本体への掲載が妥当」の3点で判断され、内容については著者が責任を持つ。報文受理後の修正は受け付けない。

d) 電子付録では、図表等をまとめて1つのPDFファイルを作成する。ページ数や様式に制限はないが、各図表の説明をPDFファイル中に記載する。ファイルサイズの上限は5メガバイトとする。

e) 電子付録記載内容の報文本文における指示は、和文の場合は「第1付図」、「第1付表」、英文の場合は「Fig. S1」、「Table S1」のように記述する。

f) 電子付録を利用する報文については、本文の「謝辞」の後「引用文献」の前に「電子付録」または「Supplementary information」という項目を追加して、「付図表はJ-STAGEのWebサイトから利用可能である。」または「Supplementary information is available at J-STAGE's website.」のような一文を追加する。

g) 電子付録のファイル名は「筆頭著者名付図.pdf」または「筆頭著者名付表.pdf」(図表両方含む場合は「筆頭著者名付図表.pdf」) 等とする。

付則 本要領は2015年2月19日より施行する。

付則 本要領は2016年2月25日より一部改定して施行する。

付則 本要領は2018年2月15日より一部改定して施行する。

付則 本要領は2020年2月20日より一部改定して施行する。

付則 本要領は2021年3月22日より一部改定して施行する。

付則 本要領は2026年3月11日より一部改定して施行する。